

第8回

企業フィランソロピー大賞

本業を生かして社会の問題解決に一石を投じた企業を顕彰する本賞。今年度は全国 36 社の応募をいただき、著類選考と訪問によるヒアリングを経て、5社に決定しました。贈呈式では受賞企業の先進的な取り組みに、会場は感動と称賛に包まれました。

第8回 企業フィランソロピー大賞
贈呈式

主催：公益社団法人 日本フィランソロピー協会



【受賞企業】

■企業フィランソロピー大賞■

アメリカンファミリー生命保険会社

■特別賞■

【先進雇用モデル賞】アイエスエフネットグループ

【未来への環境リレー賞】シャープ株式会社

【いのちを救うバードアイ賞】株式会社パスコ

【人財ハーモニー賞】株式会社加藤製作所

【前列左から】

高橋陽子(日本フィランソロピー協会)、岡田守行氏(シャープ)、
外池 徹氏(アフラック)、渡邊幸義氏(アイエスエフネット)、
島村秀樹氏(パスコ)、加藤景司氏(加藤製作所)

★企業フィランソロピー大賞

アメリカンファミリー生命保険会社

【贈呈理由】

アメリカンファミリー生命保険会社はがん保険を主力商品とする保険会社であるが、がんを通して社会還元すべく、社員、保険販売代理店が一体となって「アフラックがん遺児奨学基金」「アフラックペアレンツハウス」「ゴールドリボン運動」の3つの活動を柱としたプログラムを展開している。

中でも、小児がんのために地方から専門病院で闘病する子どもに付き添ってくる家族のための宿泊施設「ペアレンツハウス」は、現在、東京に2棟、大阪に1棟ある。安価に宿泊出来るだけでなく、ソーシャルワーカーの相談も受けられ、家族が精神的な支えを得る場ともなっている。運営にかかる費用は、8割を超える社員や販売代理店であるアソシエイツの寄付やチャリティ募金、会社からのマッチングギフトで賄われるなど、全社を挙げての活動となっている。

他の活動も含め、同社の活動は、ステークホルダーの理解と積極的な参加により支えられており、企業フィランソロピー大賞のモデルとして高く評価できるものである。

★特別賞【先進雇用モデル賞】

アイエスエフネットグループ

【贈呈理由】

アイエスエフネットグループは「雇用の創造」を目指したIT企業であり、五大採用(ニート・フリーター・シニア・障害者・ワーキングプア・引きこもりの人々の採用)に取り組んでいる。

通常、企業の採用は経験などを条件とすることが多いが、同社ではIT未経験者であっても、独自の教育制度により、IT業界への門戸をくぐる事ができるように工夫し、雇用創出を図っている。

こうして採用された人は2000年の創業以来千名を超え、2020年までにニート・フリーター・ポーター・引きこもり、更には障害者の採用を更に増やすべく長期計画を立てている。これは、同社の経営理念である「ICT事業を通して、一人でも多くの人に働く喜びや生きがいを見出して欲しい」の実現を目指すものである。

このように、同社は他に例のないユニークかつ明確な理想を追求する企業であり、同時に新しい雇用モデルを示すとともに、企業のあり方に革新的な変化をもたらすものである。

★特別賞「未来への環境リレー賞」
シャープ株式会社

【贈呈理由】

シャープ株式会社は、未来の地球を担う子どもたちを、地球環境を意識した生活行動へと導き、さらに、技術立国として必須である理科への興味を高める社会貢献活動に取り組んでいる。

特に、地球温暖化の防止は、持続可能な環境を形成していくために全ての人が取組まなければならない喫緊の課題であるが、この解決には環境技術の開発、普及はもとより、子どもたちへの息の長い環境教育が重要であるとの認識の下、専門性を持つNPO法人気象キャスターネットワークと協働し、「小学校環境教育」を実施している。現在では年間500校もの小学校が参加する広がりを見せ、これまでの累計受講児童数は10万人に達している。

このように、全社を挙げての活動として、本業である技術、専門性などの持てる力に加え、地球全体の異常気象、気候変動に関する専門的な知識を持つNPOと協働して課題に取り組んできた実績は特筆すべきものであり、教育分野における社会貢献の範を示すものである。

★特別賞「いのちを救うバードアイ賞」
株式会社パスコ

【贈呈理由】

株式会社パスコは、本業である最新の計測技術と空間情報処理技術を駆使し、災害時の地形情報をいち早く収集、これを無償で災害対策にあたる当局に提供している。

例えば、平成16年の新潟県中越地震では災害状況図の作成。災害の全容を把握する情報を提供し、迅速で的確な災害復旧、さらには防災対策に至る一連の対応の指針として利用された。また、海外の災害に対しても同様な情報を当地の関係当局に提供している。

同社の活動は、最先端の情報処理技術を用いた情報を無償で災害復旧に役立てるといった、極めて先進的で社会性の高い社会貢献である。さらには、こうした技術を応用し、地球温暖化の原因である二酸化炭素の森林吸収データを定時定点的に観測することを目標にするなど、今後の環境保全において多大な役割も期待されている。

公共性の高い事業展開をする企業が、その専門性を追求する結果として多大な社会貢献につながっている、という事業のあり様は高く評価されるものである。

★特別賞「人材ハーモニー賞」
株式会社加藤製作所

【贈呈理由】

如何にして高齢者がいきいきとした毎日を過ごせるか、また高齢者人口が高くなりがちな地方都市を如何に活性化するかは、大きな社会課題である。また、安い人件費を目的とした海外への工場移転など、中小企業の存続のための課題も顕在化している。

これらを総合的に解決しようとする試みが、株式会社加藤製作所の高齢者雇用制度である。高齢者が週末働くことで、365日稼働を達成している。年金が満額もらえる範囲で高齢者は就労し、日々の生きがいを生むと同時に、一般従業員の就労機会を奪うこともない。むしろ、高齢者と共存する職場環境を従業員が望んでおり、現在では週日も老若50・50の就業比率となっている。人件費の一部が高齢就労者の賃金で充当されるので、企業の製造費に占める人件費が相対的に安価となり、コスト軽減も図れる。

高齢者の生きがいや地域社会の活性化に加え、中小企業の存続を可能にする先進的なビジネスモデルとして、大いなる示唆を与えるものである。

【選考委員】(五十音順・敬称略)

木全ミツ (きまた・みつ)
NPO 法人女子教育奨励会
(JKSK = 女性の活力を社会の活力に) 理事長

西崎哲郎 (にしざき・てつろう)
東京国際コンサルティング株式会社 会長

藤原作弥 (ふじわら・さくや)
エッセイスト・ノンフィクション作家、
元日本銀行副総裁

松岡紀雄 (まつおか・としお)
神奈川大学経営学部 教授

【ワーキング・メンバー】(五十音順・敬称略)

植村達男 (神戸大学東京オフィス コーディネータ)

柴谷元 (株式会社リョーサン、浜松ホトニクス株式会社監査役)

※植村達男氏は、平成22年12月22日に逝去されました。生前のご支援に深く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。